

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 5 報
千葉県農林水産部
平成 25 年 7 月 26 日

●早期落水を防止し、適期収穫で高品質米生産を！

[生育概況]

梅雨明け後の高温、多照により、出穂期はやや早～並となっています。生育の早い地域では、4月20日植えの「ふさおとめ」が7月10日、「ふさこがね」が7月12日、4月20日植えの「コシヒカリ」が7月17日、5月1日植えの「コシヒカリ」が7月21日出穂期となっています。

気象庁によると、7月20日からの一か月の気温は平年並と予想されており、成熟期は「ふさおとめ」が8月14日頃から、「ふさこがね」が8月19日頃から、「コシヒカリ」が8月24日頃からと予測されます。

品質の良い米を生産するため、登熟期間中の水管理を徹底し、早期落水は止めましょう。

表 1 品種別の生育進度と成熟期の予測

品種	植付時期	出穂期の 平年比較	成熟期予測			
			県北	九十九里	内湾	県南
ふさおとめ	4月20日頃	やや早～並	8月17日～	8月14日～	8月14日～	8月14日～
ふさこがね	4月20日頃	やや早～並	8月22日～	8月20日～	8月19日～	8月19日～
コシヒカリ	4月20日頃	やや早～並	8月30日～	8月28日～	8月25日～	8月24日～
	5月1日頃	やや早	9月2日～	9月1日～	8月29日～	8月28日～

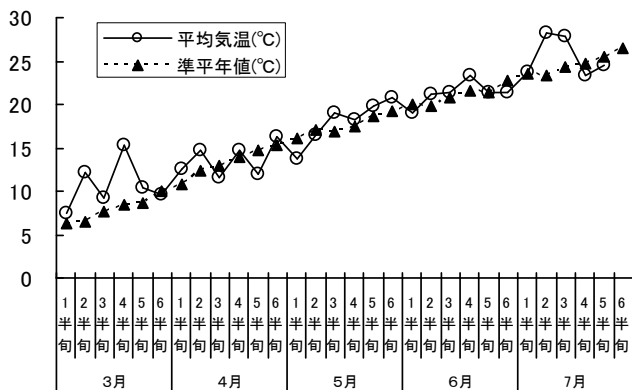


図 1 日平均気温の推移 (アメダス、佐倉)

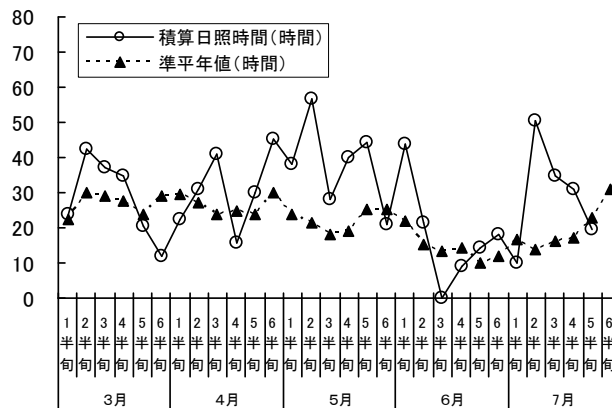


図 2 日照時間の推移 (アメダス、佐倉)

[これからの管理のポイント]

■ 適正な水管理の徹底

出穂 2 週間後までは湛水管理を徹底しましょう。

その後は間断かんがいを行い、早期落水は止めましょう。

- ① 出穂期～出穂2週間後は米の品質を決定する重要な時期です。登熟期の水不足は乳白米等の白未熟粒の多発生による品質低下の原因になります。湛水管理をしっかりと行い、品質低下を未然に防ぎましょう。

※自然由来のカドミウムの吸収を抑えるためにも必要な技術です

- ② 今後の水不足が懸念されています。田をよく見回り、漏水やオーバーフローを防ぎましょう。
- ③ 出穂2週間後から出穂25日後までは間断かんがいにし、徐々に田面を固め、コンバイン収穫に備えましょう。
- ④ 早期落水は品質低下を招く原因となるので止めましょう。

■ 斑点米カメムシ類の防除

ほ場をよく見回って、早期発見・適期防除に努めましょう。

- 出穂期後は、カメムシ類が飛来していないかほ場を見回り、発生が多い場合には防除を実施しましょう。
- カスミカメムシ類は飛来成虫が籾を加害し、大型のカメムシ類は水田で増殖した幼虫が加害して被害が拡大します。
- 「ふさおとめ」等の早生品種に比較して、晩生の「コシヒカリ」の方がへ飛来した雌成虫の産卵数が多いことから、幼虫による斑点米の発生が懸念されます。早生品種等で成虫の飛来が多いときには「コシヒカリ」で幼虫発生の初期となる出穂 15 日後の防除を行いましょう。

表 2 カメムシ類の主な防除薬剤

薬剤名	有効成分名	10a当たり散布量	使用時期/回数
エルサン粉剤 3DL	PAP	3kg	収穫 7 日前まで/2 回
スミチオン粉剤 3DL	MEP	3~4kg	収穫 21 日前まで/2 回 (注:出穂前散布は 1 回まで)
スミチオン乳剤 1,000 倍液	MEP	60~150 リットル	収穫 21 日前まで/2 回
トレボン粉剤 DL	エトフェンプロックス	3~4kg	収穫 7 日前まで/3 回
MR, ジョーカー粉剤 DL	シラフルオフエン	3~4kg	収穫 7 日前まで/2 回
MR, ジョーカーEW 2,000 倍液	シラフルオフエン	60~150 リットル	収穫 14 日前まで/2 回
ベストガード粉剤 DL	ニテンピラム	4kg	収穫 14 日前まで/4 回
スタークル/アルバリン粉剤 DL	ジノテフラン	3kg	収穫 7 日前まで/3 回
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤 2,000 倍液	ジノテフラン	60~150 リットル	収穫 7 日前まで/3 回
ダントツ粉剤 DL	クロチアニジン	3~4kg	収穫 7 日前まで/3 回
ダントツ水溶剤 4,000 倍液	クロチアニジン	60~150 リットル	収穫 7 日前まで/3 回
エルサンバッサ粉剤 20DL	BPMC、PAP	3~4kg	収穫 7 日前まで/2 回

※ 同一成分を含む薬剤は使用回数に注意する。

■ いもち病の防除

- 葉いもちは穂いもちの伝染源となります。止葉などの上位葉に病斑が多数見られる場合は、穂への感染が助長されるので出穂前に防除を行いましょう。
- 出穂期以降も発生が続くときは、天候等を考慮した上で、乳熟期頃に追加散布します。薬剤の使用基準（収穫前使用日数）を厳守しまししょう。

表 3 いもち病の主な防除薬剤

薬剤名	10aあたり使用量	使用時期/使用回数	作用性
コラトップ粒剤5 コラトップジャンボ	3~4kg 10~13個	穂いもちに対しては出穂 30 日~5 日前まで/ 2回	予防
フジワン 粒剤	3~5kg	穂いもちに対しては出穂 30 日~10 日前に湛 水散布。ただし収穫 30 日前まで/2回	
フジワン 粉剤DL フジワン 乳剤	3~4kg 1,000 倍/120~150 リットル	収穫 14 日前まで/2 回	
ラブサイド粉剤DL	3~4kg	収穫7日前まで/3 回	
カタジンP粒剤	3~5kg	穂いもちに対しては出穂 20 日~7日前まで/ 2回	
〔耐〕アチーブ 粒剤7	3~4kg	穂いもちに対しては、出穂 30 日~5日前に湛 水散布。ただし収穫 21 日前まで/3回	
〔耐〕アチーブ 粉剤DL 〔耐〕アチーブ MC	3~4kg 2,000 倍/60~150 リットル	収穫 14 日前まで/3 回	予防・ 治療
カスラブサイド粉剤DL	3~4kg	穂揃期まで/2 回	
ノンプラス 粉剤DL ノンプラス フロアブル	3~4kg 1,000 倍/60~150 リットル	収穫7日前まで/2 回	
ブラシン 粉剤DL ブラシン フロアブル	3~4kg 1,000 倍/60~150 リットル	収穫7日前まで/2 回	
カスミン 粉剤DL カスミン 液剤	3~4kg 1,000 倍/120~150 リットル	穂揃期まで/2 回	治療

※ 〔耐〕：MBI-D 剤（ウィン、デラウス、アチーブ）に対するいもち病の耐性菌の発生が、西日本を中心に他県で広く確認されている。

■ 農薬の飛散防止

農薬の散布に当たっては、周辺への飛散防止のため、次の事項に注意しまししょう。

- 風の弱いときに風向きに注意して散布する
- 散布の方向や位置に注意する
- ドリフト低減ノズルなど適切なノズルを用い、適正な圧力で散布する
- 適正な散布量で散布する
- 近隣の住民や生産者と連絡を密にする
- 緩衝地帯を設ける
- 遮蔽物を設ける
- 飛散しにくい農薬や剤型を選ぶ
- タンクやホースの洗浄を徹底する

■ 適期収穫

良品質米の生産のため収穫は適期に行いましょう。

収穫は登熟状況を十分に観察し、帯緑色歩合 15%の時にいきましょう（注：帯緑色歩合は生育中庸な 10 株から中位の穂を選び、不稔歩合を除いて数えます。図3参照）。

なお、各品種の収穫期の目安は、出穂期（全穂数の 40～50%が出穂した日）から、「ふさおとめ」で 33 日前後、「ふさこがね」で 37 日前後、「コシヒカリ」で 38 日前後です。早刈りでは青未熟粒、刈り遅れでは胴割米等が発生し、品質・食味を低下させます。

また、収穫した籾を 3 時間以上炎天下に放置しておく、品質が低下します。収穫後は速やかに乾燥しましょう。

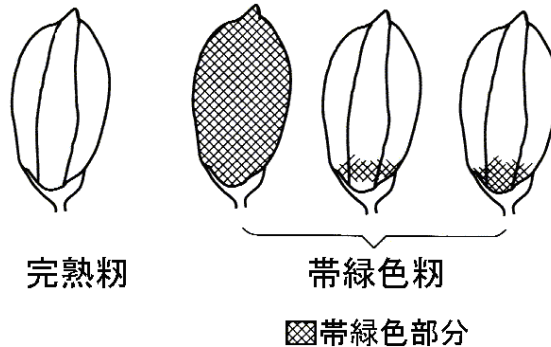


図 3 帯緑色籾の見分け方

■ 仕上げ水分

高温による急速な乾燥や過乾燥等は胴割れ米を発生させ、品質・食味を低下させます。乾燥は平均每時乾減率 0.7～0.8%で行い、仕上げ水分は 14.5～15.0%とします。

また、乾燥終了直後の、籾の温度が高い状態で籾摺りを行うと、肌ずれ米や胴割米を生じるので、十分に放冷し、温度を下げてから行いましょう。

■ 選別には 1.8mm 以上の網目

粒厚 1.8mm 以上の米はタンパク含量が低く、美味しいお米です。粒厚が小さい米の混入はタンパク含量を高める原因になるので、選別の網目は、1.8mm 以上にしましょう。

また、大粒が特徴の「ふさのもち」については、1.9mm 以上にしましょう。

■ 異品種混入の防止

異品種の混入を防止するため、コンバイン、乾燥機、籾すり機をていねいに清掃しましょう。

■ 生産履歴記帳

「売れる米づくり」に栽培管理の記録は不可欠です。集荷団体では、出荷に当たって「生産履歴」（栽培管理記録簿）の提出をお願いしています。もう一度記録簿を確認しておきましょう。

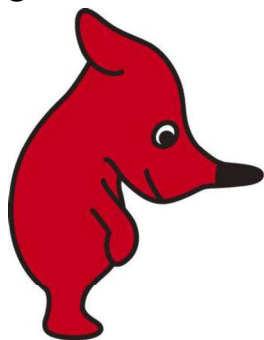


図 4 ふさこがね（4 月 19 日植え）
7 月 26 日（千葉市緑区刈田子）の様子

平成25年産「米」の

放射性物質検査を実施します

お願い



チーバくん

市町村ごとに実施する検査の結果が判明し、安全性が確認されるまで、お米の出荷・販売・譲渡・贈答はしないでください。

県では、全市町村を対象に、国、市町村、生産者団体等と連携し、米の放射性物質検査を行います。

平成25年産の米については、市町村ごとに抽出して放射性物質の検査を行い、結果が基準値の100Bq/kg以下であった場合、出荷・販売・譲渡・贈答ができるようになります。

※ ただし、検査結果が50Bq/kgを超えた場合(100Bq/kg以下)は、さらに密度を引き上げた追加検査を実施しますので、ご協力をお願いします。

追加検査を実施する場合には、全ての結果が100Bq/kg以下であれば、出荷・販売・譲渡・贈答が可能となりますので、市町村からの連絡を待って、出荷・販売等するようお願いいたします。

千葉県は全国有数の早場米の産地です。

市町村からの出荷自粛解除の連絡をきちんと待って、安全性が確認されたお米を消費者に提供していきましょう！